



—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

◦ 学内情報ネットワークシステムの完成と 図書館システム 石垣久四郎…… 1	◦ 記念資料室だより…………… 5
◦ 附属図書館増築に伴う本館・新館の利用計画…… 3	◦ 『投書』の中から…………… 6
◦ 第30回東北地区医学図書館協議会…………… 4	◦ 人事異動
◦ 平成元年度情報検索担当者会議	◦ 編集後記

学内情報ネットワークシステムの完成と図書館システム

附属図書館調査研究室研究員 石 垣 久 四 郎

東北大学が社会の高度情報化に対処すべき 研究教育環境の基盤整備事業として全学的に進めてきた東北大学総合情報ネットワークシステム TAINS は、昭和62年度からの年次実施計画予算により約2年の整備工事期間で構築・完成した。平成元年10月12日から全学を網羅するネットワークシステムが全面的に運用を開始し、同年11月8日には、学長の主催により文部大臣（代理）を初めとする関係各位の御列席のもとに TAINS 完成披露式が行なわれた。

TAINS は、全学を網羅する通信ネットワークに各種情報機器が接続されて、総合情報ネットワークシステムを構成・構築している。高速デジタル通信ネットワークを基盤としている TAINS は、全学の各部局・学科を単位に同軸ケーブルの使用により構築された伝送速度 10Mbps の中規模ネットワーク（インハウスネットワーク；バス型イーサネット）と、これらを光ファイバでループ状に接続する伝送速度 100Mbps の大規模ネットワーク（基幹ネットワーク；トークンパッシングアクセス方式のリング型ネットワーク）の2階層で構成されている。そして、学内のホストサーバシステムである大計センター、情教センター、図書館、事務局、等のスーパーコンピュータ、汎用大・中型コンピュー

タから各部局研究室等のワークステーション、パーソナルコンピュータ、計測機器、等までの大小さまざまな情報処理機器の接続を可能とし、学内はもとより、学外・海外との情報交換が促進され、コンピュータ・情報資源の共有化と同時に効率的な利用が可能となっている。さらに、TAINS は、わが国で最初の本格的学内ネットワークシステムであるとともに、異機種コンピュータ間通信のための国際標準規格 OSI (Open Systems Interconnection) を採用した先進的なネットワークシステムの構築として多くの注目を集めている。このように、TAINS 構築実施計画の基本設計方針は、あらゆる学術資源を結び付け、自在な情報の交流・交換を可能とすることでより強力かつ高度に研究教育を支援する環境を提供できることを前提として、次のようなことを基本的要件とした。すなわち、① 現在入手し得る通信技術をできる限り結集し、世界的にも最高の先進的なネットワークシステムとすること、② 今後の技術の進展とともに将来にわたっても発展すること、③ 国内はもとより、海外の大学研究機関間とでも自在に情報の相互利用も可能とすること、等をネットワークシステム構築の基本的考えとすることを確認し、具体化されたのである。

一方、附属図書館では、以上のような基本的考えのもとに整備構築された TAINS への有効的 / 効率的な図書館システムの対応・利用の仕方を次のように実施計画し、現在すべての機能が具体化され運用している。図書館システムは、TAINS の中では大計センター、情教センター等と同様にホストサーバシステムとして位置付けられてきたとともに、図書館システムの構成及び処理形態がホスト集中処理方式で、かつ広くは全国学術情報ネットワークの構成要素として、学内では全学オンラインネットワーク構成など、ネットワーク型構造システムである。このことから、図書館システムが TAINS と効率的に接続・結合し、その通信ネットワーク機能を全面的に利用できるということは、あらゆる面において極めて大きな効果が得られることになる。具体的には、TAINS を介することにより、いつでも、どこからも利者自身の端末機で図書館システムの所蔵目録データベースを自在に検索アクセスすることが可能となると同時に、加えて日常業務処理も大容量高速データ通信の利用により効率化・迅速化が図られることになる。

したがって、このような大きな効果を得られることを意図して図書館システムでは、TAINS の構築整備スケジュールに合わせ段階的に、以下のような対応を行ない全面的な運用を行なっている。

- (1) 従来までの通信回線 (NTT, 構内) を TAINS の高速デジタル通信網へ切替・直結し、通信処理の高速化と通信費の経済化を図った。
- (2) ホストシステム側を TAINS の LAN 整合装置による OSI 対応に改良すると同時に、新たに一般利用者向き用としてラインモードの無手順端末対応の蔵書検索システムを開発し、利用者自身のパソコン、ワープロ等から自由に所蔵目録データベースを検索できる、いわゆる OPAC (Online Public Access Catalog) の実現化を図った。
- (3) TAINS の高品位イメージデータ送受信システムを利用し、学内における文献複写サービスの効率化を図った。

以上のように附属図書館では、今後、図書館情報提供サービス機能の充実化を本格的に推進して行く所存でありますので、らさに全学的な御指導・御鞭撻・御協力を切にお願い致します。

附属図書館増築に伴う本館・新館の利用計画

平成元年2月より始まった新館の建築はいよいよ竣工の運びとなり、平成2年4月20日オープン致します。総床面積約5,700㎡、収容能力約50万冊、地上四階建の瀟洒な建物は本館より約14m離れて一見全く別の建物のように見えますが、入口も本館と通路で結び、本館、新館を有機的な関係の基に運営する予定です。新館に配架する資料は逐次刊行物が中心となり、本館は専ら図書（単行書）が中心と、機能を分離することによって効果的な利用を図るものとします。この増築を機にこれらの図書が新館に移転した後、本館の書架の再配架を行ない、本館・新館共に15年位の増加に耐えられるようになります。新館完成後の資料配置は以下の通りです。

(1)本館書庫

地下1階

新分類（洋）、旧教養部分類（洋）、旧片平分類（洋）、大型コレクション、個人文庫（ケーベル、ヴント、ゼッケル、チャーテルマン、シュタイン、伊東、石津、須永等）、東北アメリカ学会図書、旧アメリカ文化センター寄贈図書、マイクロフィルム資料、参考図書等

地下2階

新分類（和）、旧教養部分類（和）、旧片平学芸図書、旧片平分類（和）、旧指定図書、旧教養部古典、狩野文庫、和算資料、秋田家文書等、マイクロフィッシュ資料

(2)新館

1階

国連・OECD・EC 資料、新聞縮刷版、新聞

（オリジナル）、外国学位論文、国内学位論文要旨、旧制二高蔵書、旧制仙台工専蔵書、官報、有価証券報告書、個人文庫（櫛田、児島、大類、長谷田、和田、晩翠、梅原、河野）

2階

和雑誌（A～R）

3階

和雑誌（S～Z）

洋雑誌（A～M）

4階

洋雑誌（N～Z）

キリル誌、大型雑誌、狩野文庫（別置本）、漱石文庫

○本館・新館の利用

新館については、その大部分が現在の本館の書庫の延長という性格を持っていることから、新館に入庫できる者は本館の利用規則第19条に規定する*「入庫のできる者」とし、同条に規定する者以外の利用は、本館の書庫同様「出納方式」によりますが、本館の利用については現行どおりとします。尚、利用時間については、本館は午前9時より午後8時まで、新館は午前9時より午後4時30分までとします。

*「入庫のできる者」

- ①本学の教官、大学院学生（大学院研究生を含む）、名誉教授、元教官（教授、助教授、講師）、
- ②本学の非常勤講師、研究員、研修員、医員及び研修医のうち館長が許可した者、③館長が特に認めた者

第30回東北地区医学図書館協議会

標記会議が平成元年10月11日（水）、12日（木）の両日、当番館奥羽大学図書館（東北歯科大学を平成元年4月1日奥羽大学と名称変更）会場として加盟7館から館長（分館長）・主任司書12名が参加して開催された。

当番館の島野館長から挨拶があり、続いて島野館長が議長となり議事に入った。報告事項、協議事項、承合事項等について紹介する。

報告事項：①各館の近況報告、②日本医学図書館協会理事会報告、③BLDC（British Library Document Supply Center）複写利用報告。

協議事項：①日本医学図書館協会出版物「年次

統計」・「加盟館員名簿」の次期担当館について、②平成元年度情報検索担当者会議について、③第61回日本医学図書館協会総会の地区提出議題について、④日本医学図書館協会役員改選について、⑤次期当番館について。

承合事項：①冷房設備の設置状況について、②福島県内医療機関図書室協議会加盟図書室から地区医学図書館への直接文献複写利用等について種々活発に協議され、次期評議員館（平成2年～3年）と次期当番館を福島県立医科大学に決め2日間にわたる会議を盛会裡に終了した。

（医学分館）

平成元年度情報検索担当者会議

標記会議が東北地区医学図書館協議会が主催し、JICST 東北支所の後援により開催された。今年度は JICST が開催した JOIS-Ⅲ 講習会に参加するかたちで実施された。

参加者は、JICST の講師による平成2年1月よりサービス開始となる JOIS-Ⅲ の検索システムと各検索ファイルについて新しく開発された機能や JOIS-Ⅱ からの変更点などの解説講演を受けた後、数台の端末機により実際に新しい検索システムを体験した。

会議日程及び概要は次のとおりである。

期日：平成元年12月7日（木）～8日（金）

当番館：東北大学附属図書館医学分館

会場：オーク仙台ビル地階会議室

第1日目 12月7日（木） 開会 10：00

JICST 東北支所長挨拶 宮田 二郎 氏

講演 JOIS-Ⅲ の検索機能について

講師 JICST 業務部オンライン課

課長補佐 高野 勝宏 氏

端末研修：15：00 JICST 東北支所

第2日目 12月8日（金） 開会 10：00

講演 データベースの各検索ファイルについて

講師 JICST 業務部検索課

課長 福島 勲 氏

端末研修：15：00 JICST 東北支所

なお、協議会加盟館からの参加者以外に宮城の坂総合病院図書資料室から1名の特別参加者があった。

（医学分館）

記念資料室だより

昨年(1989)の10月19日、医療短期大学名誉教授の大脇頼子先生、本学理学部植物生理学講座の駒嶺穆、和田俊司両先生にお世話いただき、かつて本学生物学教室で植物生理学の世界的権威ハンス・モーリッシュ教授に近しく接されていた新潟大学名誉教授の相馬悌介先生に、モーリッシュ教授の思い出をじかにおうかがいする機会を得た。モーリッシュ教授は大正11年(1922)にウィーン大学から本学に招聘され、生物学教室で植物生理学・植物解剖学を講じられた。相馬先生は、生物学教室の創立者でもある日比野信一教授を通じて、モーリッシュ教授付の雇員として採用され、以後モーリッシュ教授の身の世話を研究の補助、講義の準備などを通じて、誰よりも同教授に身近に接せられていた。

相馬先生の語られる思い出のお話は、モーリッシュ教授の学者としての威厳に満ちた人となりや生き方をほうふつとさせるものであり、正に高い嶺を仰ぎみるような思いがした。また今まで存じ上げなかったモーリッシュ教授の謙虚で暖かいお

人柄について伺い、あらためて感銘をうけた。当時既に植物生理学の世界最高峰でおられた同教授であったが、ウィーン大学での師であるウイズナー教授とご自分とをひき比べて「わたしの師ウイズナーは巨木(セコイア)だったが、わたしはミクロロックスに過ぎない」とまでいわれたという。教授は常にひかえめで真摯な学問的態度を堅持されていたのである。また写真等でうかがう限りとても厳正で恐ろしいばかりの風貌の持主であったかのように想像されるが、実は教授はしばしばたいへん優しい笑い顔をおみせになる温情に満ちたお人柄の紳士でおられたとも伺いした。モーリッシュ教授のご功績は、本学の生物学教室の基礎を築いたのみに留まらず日本の植物生理学のきわめて重要な学問的基礎を構築するという偉業でもあったとお伺いしているが、後進の学者達をひきつけるという厳正でかつ生き生きとした学風は、独特の人間的な魅力に満ちた同教授の人格にそのまま裏付けられたものであったのだろうか、との印象を強く抱いた次第であった。

『投書』の中から

○大学図書館の公開および利用証の提示について

本学図書館の利用対象者は、利用規則により主として本学の研究者、院生および学生となっております。しかし、資源の共有という観点から当館の資料を必要とする他大学の研究者、学生それに一般市民の方にも、別途利用手続により利用サービスを行っております。なお、入館の際に学生証または利用証を提示していただいているのは、図書館資料の利用を目的としない外部の方がむやみに入館できないようにするためのものでありますので、この点ご理解いただき、利用者各位のご協力をお願い致します。

○留学生用図書の選定について

本学では現在、37カ国から500名近い外国人留

学生が学んでおりますが、そのうち約9割がアジア諸国からで、とりわけ中国がとび抜けて多く46%、韓国の23%がそれに続きます。昭和63年度の特別予算で約220万円が留学生用の図書費として認められたのを機に一括して留学生用図書の購入に当て、その場合利用者が限定される個々の国の言語の文献はむしろ避けて、世界で最も普及している英語による日本関係の図書、それに日本語学習図書に絞って選定致しました。又、圧倒的に留学生の多い中国・韓国・インドネシアの3カ国については現地の新聞を新しく購入しておりますので御利用下さい。なお、この図書は、留学生に限らず本学の一般学生も利用できますので大いに活用して下さい。

人 事 異 動

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
元. 10 .1	情報サービス課事務官	栗 野 ゆきあ	総務課庶務掛調査統計主任	昇 任
元. 11. 31	情報管理課長	遠 藤 哲 朗		退 職
元. 12. 1	弘前大学附属図書館情報管理課長	兵 永 朗	情報管理課長	配 置 換

編 集 後 記

年号が昭和から平成へと移り、早1年が過ぎ去り、この冬は暖冬といわれたが1月中旬から大寒波にみまわれました。

図書館に待望の新館が完成し21世紀に向け、発展を図る新しい年となることと思われま

す。ユニークな記事内容と思いつつ編集の仕事を始めたが平凡な館報に終り、深く反省しています。今後は、新しい企画で楽しく読める館報を新編集員の方々に希望いたします。

東北大学附属図書館報「木遣子」 第14巻 第4号（通巻第56号）発行日 平成2年2月28日

編集委員長 菅沢栄治 編集委員 大泉秀則、佐藤定夫、佐々木勝義、菅野博之

発行人 相良侯秀 発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話代表 222-1800（2403）